

雲雀丘・山本・エリア

閑静な住宅地として宝塚に
ける郊外住宅地の一つ。特に
雲雀丘・花屋敷地区には洋風
のモダンスタイルを志向した
町並みが広がっています。



雲雀丘
山本

23 ながおやまこふん 長尾山古墳 (市史跡)



平成19年から行われた学術調査の結果、4世紀初頭に造られた全長約42mの前方後円墳であることが判明した。内部に、長さ6.7m・幅2.7m・高さ1mの巨大な粘土郭(木棺を粘土で覆った埋葬施設)が発見された。

24 きりはたぐんしゅうふんいちごうふん 切畑群集墳1号墳 (市史跡)

雲雀丘から中山寺の辺りにかけてある長尾山丘陵に、6~7世紀にかけて群集墳と呼ばれる多くの古墳が造られた中のひとつで、最も東の標高約120mの尾根上に立地する。横穴式石室を持つ直径約15mの円墳で、この地方の有力者の墓と考えられている。



25 ばんらいさんこふん 万籟山古墳 (市史跡 / 非公開)

長尾山丘陵に位置し、大阪平野をみおろす標高約200mの山頂尾根に築かれた、4世紀頃の前方後円墳。全長約64m、後部部には長さ6.8mほどの縦穴式石室があり、石室の床面には木棺が置かれていた跡がU字型で残っている。



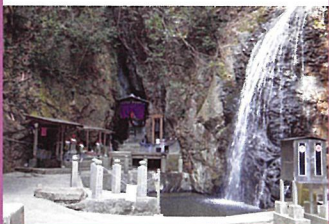
26 まんがんじ 満願寺 (社叢: 市天然記念物)



コジイ・檜・アラカシなどによる瀬戸内海沿岸に発達する典型的なシイ林。寺地は多田に本拠をおいた源満仲が帰依して繁栄した関係などから、川西市の飛地になっている。

27 さいみやうじたき 最明寺滝

出家して最明寺入道と呼ばれた鎌倉幕府の5代執権北条時頼が、この地に庵を結んだといわれたことが名前の由来。



28 まんねんさかじぞうせきぶつ 万年坂地藏石仏 (市有形文化財)



雲雀丘から満願寺へ向かう途中の通称「万年坂」にある花崗岩の自然石に彫られた地藏立像。

29 やさかじんじゃ 八坂神社

(本殿: 市有形文化財)

源頼光の重臣、藤原保昌がこの地に住みこの里の鎮守として京都八坂の牛頭天王をまつたのが始まりとされる。本殿は16世紀中頃(室町時代後期)のものとして推定される。



32 まつおじんじゃ 松尾神社

(本殿: 市有形文化財)



安和年間(968~970)に坂上田村麻呂を祭神として創建されたと伝わる。田村麻呂の幼名「松尾丸」から松尾丸社とも呼ばれた。現在の本殿は江戸時代前期のもの。

30 たいほうじ 大宝寺

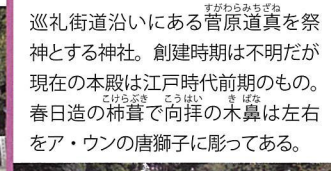
(石造物他: 市有形文化財)



曹洞宗の寺。創建などの詳細は不明。不動堂にある不動明王坐像は室町時代末頃のものとして推定されている。境内にある宝篋印塔は月輪内に胎藏界四仏の種子を刻んだ鎌倉時代末頃のもの。

33 てんまじんじゃ 天満神社

(本殿: 市有形文化財)



巡礼街道沿いにある菅原道真を祭神とする神社。創建時期は不明だが現在の本殿は江戸時代前期のもの。春日造の柿葺で向拝の木鼻は左右をア・ウンの唐獅子に彫つてある。

31 せんりゅうじ 泉流寺

(本尊: 市有形文化財)

曹洞宗の寺院。本尊の木造十一面観音菩薩像は、居眠りをしたため西国の観音霊場三十三所に入れてもらえず、それを悔やんだことから、特に居眠りでの失敗に御利益が大きいと伝えられ、「ねむり観音」として地元では親しまれている。



34 きょうき な いし 行基の投げ石



天満神社の東にある黒光稲荷大明神のほころのそばにある。「行基が街道にあった邪魔な岩を投げ飛ばしたもの」や「天狗が六甲山から投げたもの」などといわれているが、付近にあった古墳の天井石の一つかもしれない。

ちよつとアライク 3



たからづかガイド マップの番号 36
きつぎだゆう 『木接太夫』 木接太夫彰徳碑

400年ほど前、豊田秀吉の家に山本莊司・坂上頼泰という武士がいました。彼は非常に優秀な家来でしたが、老後は争いごとから離れ、故郷の山本郷に隠居するようになり、名を山本膳太夫と改めました。彼は花草が好きで、「接木」と呼ばれる植物の品種改良を成功させました。この功績を秀吉が称え、膳太夫に「木接太夫」の称号を与えました。現在阪急山本駅のすぐ西に膳太夫を称える「木接太夫彰徳碑」が建てられています。



35 たかさきねんかん 高碕記念館

(市景観重要建造物)

大正12年(1923)にウィリアム・M・ヴォーリスによって設計された。木造2階建て腰折れ屋根のコロニアルスタイルが特色の建物。(見学は要予約)

